

205 急性心筋梗塞発症1カ月後の安静時Tl心筋SPECTと運動負荷Tl心筋SPECTの対比検討

馬本郁男、杉原洋樹、原田佳明、志賀浩治、中川達哉、大槻克一、勝目紘、中川雅夫（京府医大二内）

急性心筋梗塞(AMI)発症1カ月後のTl心筋SPECTを運動負荷時(EX-Tl)と安静時(R-Tl)で対比検討。AMI21例を対象、SPECT像を視覚的に固定灌流低下群(PD), 再分布群(RD), 逆再分布群(r-RD)に分類、R-TlとEX-Tlを対比。また、梗塞部Tl uptakeを定量的に比較検討。R-Tl: 11例はPD(A), 1例はRD(B), 9例はr-RD(C)。EX-Tl: Aの11例中9例がPD, 2例がRD, Bの1例はRD。Cの9例中5例がRD, 3例がPD, 1例がr-RDを示した。R-Tlの初期像とEX-Tlの遅延像で梗塞部のTl uptakeを比較すると、Aの2例(18%)およびCの8例(89%)でR-Tlの初期像のTl uptakeは視覚的、定量的に大であった。AMI発症1カ月後のR-Tlの梗塞部逆再分布現象はEX-Tlによる梗塞部心筋viabilityの過小評価と関連すると思われた。

206 TL-201運動負荷心筋シンチグラム24時間後像による心筋viabilityの評価と左室壁運動との関連

宮之原 浩、小寺顕一、古田利久、田淵博巳、橋裕紀、中村一彦、有馬暉勝（鹿児島大学第2内科）

宮原健吉（新杏病院）

TL-201運動負荷心筋シンチグラム4時間後像にて完全再分布を認めない陳旧性心筋梗塞36例に対し24時間後像を撮像し、左室造影(LVG)と対比し心筋viabilityを定量的に評価した。36例中14例(39%)に24時間後像での再分布が認められ、これらの症例では運動負荷に伴う胸痛やST低下が大きい傾向にあった。またLVG上non-kinesisを呈した症例のうち40%に24時間後再分布が認められ、これらの例では4時間後像でのextent score, severity score, 24時間後像でのseverity scoreは有意に小さく、4時間後像の%TL-uptakeは有意に高かった。

207 虚血性心疾患における201Tl心筋SPECTの運動負荷24時間後像と安静時像の比較

斎藤恒儀、藤野彰久、荻生徳寛（米沢市立病院）

大和田憲司、上遠野栄一、山田善美（太田総合病院循環器科）渡辺直彦、菅家道人、丸山幸夫（福島医大一内）

虚血性心疾患14例に運動負荷時と安静時のタリウム心筋シンチを別々に行い、負荷時の灌流低下部位について負荷24時間後像と安静時像を比較した。負荷4時間後に再分布を認めなかつた12領域中4領域(33%)に24時間後像で再分布を認め、更に安静時像で残り8領域のうち2領域のタリウム集積が改善した。両者における一致率は68%であり、不一致例では負荷24時間後像の肺／心筋タリウム摂取比が大であった。以上より、負荷24時間後像は1回の投与で心筋viabilityを判定しうる良い方法であるが、肺野の201Tl集積が高いか、心筋への集積が少ない例では安静時像を追加すべきと考えられた。

208 Tl-201心筋シンチグラフィ再静注法における再分布の定量的評価

成瀬 均、板野綠子、山本寿郎、森田雅人、福武尚重、川本日出雄、大柳光正、藤谷和大、岩崎忠昭（兵庫医科大学第一内科）福地 稔（兵庫医科大学核医学科）

虚血性心疾患17例においてTl-201運動負荷心筋シンチグラフィに再静注法を追加することによる再分布(RD)検出率向上を定量的に評価。直後→後期像では7例でRD+で再静注後さらに4例が+となった。ブルズアイ上で定量的に広がり(EXT), 程度(SEV)を算出したところ、直後→後期像の変化は主に△EXT, 再静注後の変化は△EXT, △SEVの両者であった。4例においては術後に通常の運動負荷心筋シンチを施行したが、RD例の術後改善は主にEXTであった。以上より、再静注法はRDの過小評価を補い、詳細な変化の観察には定量的方法が有用で、術後は主にEXTが改善すると思われた。

209 心筋viabilityの安静時Tl-201心筋SPECT像による評価

田中 健、相澤忠範、加藤和三、小笠原 憲、桐ヶ谷肇、岡本 淳、細井益宏（心臓血管研究所）

前壁梗塞19例を対象として安静時Tl-201心筋SPECT像の矢状面よりTl-201摂取率を求め、左室造影より対応部位のshortening rate(SR)を求めた。

前壁のTl-201摂取率のプロフィールカーブは7例において平坦で、12例において心基部から心尖部へと減少を示し、この12例中9例においてSRが0%となり、この部位のTl-201摂取率は46.3±6.8%(58-36)であった。

SR=-41.2+1.03%Tl-uptake($r=0.54, p<0.001$)と正の相関を示した。Tl-201摂取率が60%以上を示す101ポイントのうち87ポイント(86%)のSRが20%以上であった。

Tl-201摂取率は心筋viabilityの定量的指標として有用と考えられた。

210 タリウム心筋シンチによるviability診断

今井嘉門、荒木康史、鎌田智彦、田村裕男、日比谷和平、斎藤恒、小沢友紀雄、波多野道信（日本大学第二内科）、鎌田力三郎、萩原和男（日本大学放射線科）

Tl心筋シンチによる心筋梗塞(MI)部位のviability(V)診断の有用性を検討した。対象はMI患者38例で、運動負荷TMSをPTCA後に施行し灌流欠損(PD)の範囲を評価し、PTCAによるTMSのPD改善の程度(10%未満、10-25%及び25%以上)により、対象群を3群に区分した。10%以上のPD改善は91.6%の症例に認め、Tl心筋シンチによるV検出率は10-25%改善群(n=5)では20%(全例不完全再分布)、25%以上改善群(n=28)では85.7% (不完全再分布:67.8%, 遊再分布:17.8%)であった。MI部位に施行したPTCAの効果を冠灌流を反映するTMSで評価した所、比較的小範囲(10-25%)のVの症例を除いて、Tl心筋シンチによるV評価は臨上有用な診断方法と推察される。